



発行責任者: 歯学部長 宮崎 隆, 編集責任者: 広報委員長 中村 雅典
〒142-8555 東京都品川区旗の台1-5-8 TEL: 03-3784-8000
ホームページ: <http://www.showa-u.ac.jp>



チーム医療を一層推進しましょう

歯学部長 宮崎 隆

本大学は全学をあげてチーム医療教育とその実践に力をいれてきました。歯学部においても、健康長寿に貢献する歯科医療人の育成を旗頭に教育改革を行い、歯科病院と医学部附属病院間ならびに地域歯科医師会との連携を進めてきました。



本学は平成20年4月に学長直轄組織として昭和大学口腔ケアセンターを設立し、附属病院すべてで入院患者の口腔ケアを開始しました。先駆者のご努力で、入院患者に対する専門的口腔ケアが、術後合併症の減少、在院日数の削減、および患者のQOL維持向上に効果的であることが報告され、平成24年度の診療報酬改定で「周術期口腔機能管理」が導入されました。その後の改定で、適用範囲が順次拡大してきましたが、今回平成30年度改定では、対象手術が悪性腫瘍、臓器移植、心臓血管外科に加えて、脳血管外科や整形外科が明記され、術後合併症のリスクが高い患者への手術がすべて含まれる内容になりました。さらに、手術を実施しない患者も含まれるので「周術期等口腔機能管理」と「等」という字がはいりました。

今回の改定では、かかりつけ歯科医の機能評価、在宅歯科医療の推進、ライフステージに応じた口腔機能管理の推進、全身的な疾患を有する患者に対する歯科医療の充実など、本学が進めてきたチーム医療教育の実践が医療行為として保険に算定され、歯科医療を取り巻く環境が変わったことを実感します。

口腔ケアセンターの活動以外にも、チーム医療は他方面から着々と進められています。平成26年10月に学長直轄の昭和大学頭頸部腫瘍センターが設置されました。口腔顎領域の悪性腫瘍に関しては、耳鼻科と口腔外科が連携して、さらに術前から口腔リハビリテーション科も協力して設備が整っている大学病院で主に手術を行ない、実績を上げています。

口唇口蓋裂の治療に関しては本学形成外科が国内では圧倒的に抜きんできた実績を誇っています。歯学部は創設間もない昭和55年から、大学病院の唇裂口蓋裂診療班(SCPT)の一員としてチーム医療に従事してきました。昨年10月に学長直轄の昭和大学口唇口蓋裂センターが発足し、新たな発展を期して藤が丘病院に本拠地を移しました。副センター長に歯科病院の榎院長が就任したため、これまで以上に連携を深めます。

以上のように、医系総合大学の環境を生かしたチーム医療教育の充実を基に、医療現場でのチーム医療の実践をさらに進めていきます。また、附属病院におけるチーム医療に加えて、在宅医療ならびに地域包括ケアシステムへの展開についても、4学部連携の教育プロジェクトが現在着々と進んでいます。将来地域で活躍し、国民の健康長寿に貢献できる歯科医療人の育成に向けて関係者の協力と支援を宜しくお願いいたします。

第111回歯科医師国家試験 が実施されました

D6チューター委員会 船津 敬弘

第111回歯科医師国家試験が2月3日、4日の2日間実施され、本学はTKP東京駅日本橋カンファレンスセンターで、東京医科歯科大学や日本歯科大学と共に受験をいたしました。

各大学とも関係者が応援に駆け付けており、激励や応援がいたるところで行われておりました。数日前までは都内にも積雪があり、天候が心配されましたが、2日間とも天候に恵まれ、宮崎歯学部長、上條学生部長、美島教育委員長をはじめ多くの教員が集まり、受験生の緊張をほぐし、後押しをすべく皆で声援を行いました。

本年度本学は80名の卒業生を国家試験の場へと向かわせました。例年よりはやや少ない人数ですが、精鋭と信じる6年生をこの場に向かわせることができたのも、多くの教員や、先輩方のご助力のおかげと感謝いたしております。心から厚く御礼を申し上げます。

大きな期待を寄せて3月19日(月)午後2時に発表される結果を待ちたいと考えております。

選抜 I 期入試が実施されました

入学支援課 鳥山 ちひろ

平成30年度歯学部一般選抜入試 I 期・大学入試センター試験利用入試A方式 I 期が、1月25日(木)に東京試験場、大阪試験場、福岡試験場の3試験場にて薬学部、保健医療学部と同日に実施されました。

今年度の志願者数は、一般選抜入試 I 期(44名募集)が480名(昨年度453名より27名増加)、大学入試センター試験利用入試A方式 I 期(約10名募集)が一般選抜入試 I 期との併願を含む194名(昨年度とほぼ同数)でした。また、今年度より上位合格者には初年度の授業料を免除する大学入試センター試験利用入試B方式[地域別選抜](6名募集)を初めて3学部でも実施し、志願者数は8名でした。残念ながら、編入学Ⅱ期(若干名募集)の志願者はありませんでしたが、全国からたくさんの方の出願がありました。

試験当日は天候にも恵まれ、各試験場とも特に大きなトラブルもなく、各学部教職員の方々のご協力により無事終了することができ、翌週の1月29日(月)に一般選抜入試 I 期、2月2日(金)に大学入試センター試験利用入試A方式 I 期、大学入試センター試験利用入試B方式一次の合格者を発表いたしました。

また、2月11日(日・祝)には大学入試センター試験利用入試B方式[地域別選抜]二次試験が全学部同日で旗の台キャンパスにて実施され、2月14日(水)に合格者を発表いたしました。今年度は特に大学入試センター試験利用入試B方式[地域別選抜]を実施したこともあり、例年よりも全国各地から様々な学生が集まったため、多くの優秀な学生の入学と歯学部の発展がますます期待されます。

昨今、歯学部の志願者獲得が厳しい中、日々の入試広報活動および入学試験の運営・実施にご協力を賜りました教職員の皆さまには、心から厚く御礼を申し上げます。

引き続き、3月4日(日)に一般選抜入試Ⅱ期・大学入試センター試験利用入試A方式Ⅱ期が行われますので、今後とも何卒宜しく願い申し上げます。



白衣授与式が行われました

歯学部教育委員長 美島 健二

平成29年度昭和大学歯学部白衣授与式が、2月16日(金)に上條講堂で開催されました。本年度は臨床実習Ⅰが4年生の後期に実施されるため、例年よりも約1か月早い開催となりました。

小口理事長、小出学長のご臨席を賜り、臨床実習責任者の長谷川教授の司会・進行のもと授与式が執り行われました。まず、美島教育委員長の開式の辞により開催が宣言され、校歌斉唱と進み、宮崎歯学部長から、本授与式が臨床実習参加に必要な Student Doctorとしての認証式として大切な意味を持つ旨お話しがなされました。

その後9名の臨床系教員から学生に順次白衣の授与が行われましたが、学生達は皆、真剣な面持ちで臨んでいました。続いて小出学長、榎



歯科病院長、相澤歯科病院看護師長からの暖かな御祝辞を賜り、臨床研修を終えた先輩として出原杏梨先生から学生へのアドバイスがなされました。次いで、4年生代表の前島康平さんの発声に続き、出席者全員が声を合わせて昭和大学宣言を読み上げました。最後に、上條学生部長による閉式の辞のあと閉会となりました。その後、晴天の中、上條講堂前で記念撮影が行われました。

御父母の方々も多数出席され、学生達は臨床実習前の1つの区切りとして気持ちを新たにしましたことでしょう。Student Doctorとなられた皆さんが積極的に臨床実習に参加し、歯科医療人として大きく成長していく事を期待しております。



大学入試センター試験利用入試(B方式:地域別選抜)が実施されました

歯学部長 宮崎 隆

歯学部はこれまで推薦入試、一般選抜入試Ⅰ期・Ⅱ期、大学入試センター利用入試Ⅰ期・Ⅱ期、編入学試験Ⅰ期・Ⅱ期と、数多くの入学試験を実施して、多様な入学者を選抜してきました。平成30年度の入学試験から大学入試センター試験利用入試(B方式:地域別選抜)を新たに実施することにしました。これに伴い従来の大学センター試験利用入試をA方式といたしました。

大学入試センター試験利用入試(B方式:地域別選抜)は、本学医学部が平成21年度入試から導入しているもので、全国を6つの地域(北海道・東北・北関東・南関東、東京、中部、北陸・近畿・中国、四国・九州・沖縄)に分け、その地域ごとに入学者を選抜します。本学では1年次に富士吉田キャンパスで4学部合同の全寮制教育を行っていますので、全国各地から様々な学生を集め、異なった環境で育った学生が寝食を共にすることにより、互いに理解しあい、人間性豊かな医療人の育成を目標にしています。選抜試験だけだと出身地域がどうしても首都圏に偏るため、医学部が地域別選抜を導入した経緯があります。この試験方法が定着してきたので、今回全学的に導入することにしました。

出願資格は現役生に限ります。選抜方法は一次試験(学力試験)とその合格者を対象にした二次試験(小論文・面接)に分かれています。学力試験の教科は、歯学部は医学部と同様に、国語、地理歴史・公民から1教科1科目、理科(物理、化学、生物から2科目)、数学、外国語(英語)の6科目を課します。

最初の年で周知不足であったことと、歯学部入試としては科目数が多く受験生にハードルが高いこともあり、受験生は8名だけでした。1次試験で4名が合格し、2月11日の二次試験を受験し、2名が合格しました。

今後この試験制度を各方面で紹介するとともに、全国から有能な人材を受け入れていきたいと考えています。

国際交流活性化を目指した英語Eラーニングシステムの活用

国際交流担当 桑田 啓貴

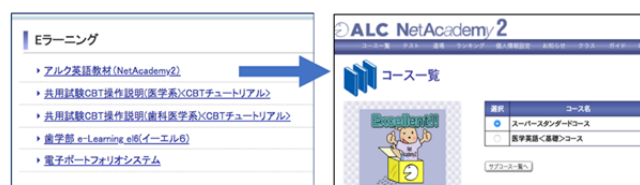
歯学部では国際交流の活性化に取り組んでいます。そのため、何よりも英語力の向上が重要です。

歯学部1年生を対象としたTOEIC IPテスト等を実施し英語力を測定していますが、過去の推移を見ますと、451.2点(H26)→462.1点(H27)→448.1点(H28)→447.0点(今年)となっています(満点990点、いずれも12月時点)。参考までにTOEICスコアの目安としては、500点で意思の疎通が可能、750点以上は仕事で使える、とされています。たしかに海外選択実習(6年生)あるいはUCLAサマーセッション(3年生)などへの参加希望者は増加していますが、学生のより一層の英語力向上が必要です。

あまり知られていませんが、昭和大学学内専用HPには英語トレーニングのオンラインツールとして、英語Eラーニングシステム(NetAcademy2アルク社)が用意されています。

英語力に応じて「スタンダードコース」、「スーパースタンダードコース」、「医学英語・基礎コース」の3種類が選択できます。(ログイン方法は下図参照。アカウントとパスワードは昭和大学ID)。1回実施時間が15分程度です。空き時間を活用することで、英語力向上が実現します。

昭和大学 学内専用HPの右下よりログイン



<https://enl.showa-u.ac.jp/anet2/>

大学院春期Ⅱ期入試が行われました

大学院運営委員長 山本 松男

2月17日(土)に大学院春季Ⅱ期入学試験が、外国語(一般英語および科学英語)および専門科目について実施されました。一般選抜12名、社会人選抜8名が受験をしました。合格発表は3月19日です。今年度の春季Ⅰ期入試では、一般選抜で10名、社会人選抜で1名の、合計11名の入学が既に決まっています。また大学院入試で実施される語学試験は、乙種博士号の審査のための外国語試験を兼ねており、今回の受験者総数は26名でした。

今回海外からの受験者はいらっしゃいませんでしたが、Skype等をもちいた面接方式の導入や語学能力評価に各国で受験できるTOEIC、TOEFL、IELTS等のスコアを準用するなど、多様な人材の受入体制を整えています。

今春は大学院在籍者の数が大幅に伸びることが予想され、歯学研究科の研究の大きな推進力になると思われます。次世代の指導者を育成すべく、教職員一丸となって熱意を持って指導に当たりたいと思います。

歯学部入試合格者ガイダンス を開催しました

入試常任委員 高見 正道

平成30年度歯学部入学試験の合格者ガイダンスが2月18日(土)に旗の台キャンパスで開催され、沖縄など各地から77名の生徒が来校しました。10月に実施された推薦・編入試験の合格者は、前回の合格者ガイダンスから今までの入学前自主学習の成果を確認するために、英語と理科3科目(物理・生物・化学)の学力テストを受け、個別面談をおこないました。

1月に実施された選抜I期試験の合格者は、宮崎歯学部長の挨拶のあと、高見教授が大学の授業を理解するには高校の学習内容が基盤となるため今後も自主学習が大切であると述べ、田中一正教授は富士吉田教育部における1年次の生活や修学について話しました。模擬授業では、井上富雄教授が「おいしさ」とは何か?というテーマで咀嚼や味覚などの口腔機能の重要性について講義し、緊張した面持ちの生徒らは真剣に聞き入っていました。

その後の個別面談では、2年次以降は大学の寮にはいれますか?などの生徒からの質問に教育職員が答え、午後3時頃ガイダンスは終了しました。参加した生徒は皆礼儀正しく向上心に溢れており、入学後の成長が楽しみです。



行事予定

広報委員長 中村 雅典

- 3月1日 新D2オリエンテーション
- 3月5日 新D2防災訓練
- 3月9日 卒業式
- 3月16日 大学院修了式
- 3月19日 歯科医師国家試験合格発表
- 3月30日 新D3オリエンテーション
- 4月2日 D4・D5・D6オリエンテーション
- 4月7日 大学院入学式
- 4月12日 入学式

昭和大学学生部長 に就任します

歯学部学生部長 上條 竜太郎

本年4月1日付けで昭和大学学生部長に就任することとなりました。これまで担当致しておりました歯学部学生部長も併任致します。昭和大学学生部長を担当させていただくのは、歯学部では宮崎隆先生、立川哲彦先生以来でございますので、その責任の重さを強く感じております。ご存知の



通り、本学は4学部を擁する医系総合大学であり、異なる専門性を有する学生が、医療人になるという高い志をもって日々勉学に励んでいます。その責任の重さに思いをはせれば、学生に最も期待されているのは勉学であることはいまでもありませんが、学生時代にクラブ等の課外活動等を通じて多くの友人と語り合い、学内外で様々な経験を積むことも非常に有意義なことです。なぜならば、大学での学生時代は、その後の人生に最も重要な「感性」や「人間性」を獲得する時期でもあるからです。しかし、その成長の過程で、学生は多くの困難を乗り越えねばなりません。その間には辛い思いをすることがあっても当然です。学生部長としての私の使命は、学生の皆様が一生の思い出に残る有意義な学生生活を送り、高い志と優しい心をもった医療人となるように支援することです。今後とも学生の学習、生活支援に一層努めて参る所存でございますので、皆様のご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

編集後記

口腔病理学部門 田中 準一

暦の上では春となりましたが、まだまだ厳しい寒さが続く中で、入学試験、国家試験をはじめ多くの試験が実施されました。3月になりますと新年度へ向けての行事が行われてまいります。寒暖差が激しくなる季節柄です。何卒ご自愛のほどお願い申し上げます。

最後になりましたが、ご多忙中にも関わらず原稿を執筆してくださいました先生方に、この場をお借りして深く感謝申し上げます。

